

千葉大学大学院看護学研究科 教育課程編成・実施の方針（博士後期課程）

本課程では、看護学の貢献できる課題について、独創的かつ国際的な研究・開発を自立して推進できる研究者の育成に向けて、以下の構成で、教育課程を編成し、実施する。

「自由・自立の精神」を堅持するために

- 特別研究、特別演習（研究計画）において、研究課題の設定、研究計画の策定、研究の進捗管理について、研究倫理に則り学生が主体的に取り組む能力を涵養する。

「地球規模的な視点からの社会とのかかわりあい」を持つために

- 自己の専門領域に関して、地球規模的な視点からの問題について理解し、その解決のためにどのような研究開発や他領域間の協働が必要かを考察する機会を提供する。
- 自己の研究計画の策定、情報交換、成果の発信のため、専門性を活かした留学をはじめとする多様な海外・活動の機会を提供する。
- 多様な海外・国内活動に向けた英語による Academic Communication の学修機会を提供する。

「専門的な知識・技術・技能」を修得するために

- 特別研究、特別演習（研究計画）、看護学特論等において、専門性の高い研究領域における新しい知見や価値の創造に向けた検討の機会を提供する。

「高い問題解決能力」を育成するために

- 自立的・指導的な研究者として、研究・教育に従事するための準備となる実践的な学修の機会を提供する。
- 海外・国内の多様な文化や社会における健康と安寧な生活への看護学の貢献に学び、看護学の新しい知見や価値の創造の必要性を考察する機会を提供する。

「学修成果の厳格な評価」のために

- 学修成果については、事前にシラバス等で提示する各授業目標への到達度によって、厳格かつ公正な評価を行う。授業科目の特性に応じて、以下のような適切な評価方法によって成績評価を行う。

- 講義科目では、試験、レポート、リアクションペーパー等でその達成度を評価する。
- 実験・実習・演習科目では、試験、レポート、口頭発表、実技等でその達成度を評価する。
- 学位論文は、審査基準と審査方法をあらかじめ明示し、それに基づき審査体制を整備したうえで、論文審査および最終試験を厳格かつ公正に行う。

上記の継続的な学修を促進するために、情報通信技術を活用した学修基盤を提供する。